

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-179	20-004	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳） One million screened: Scaling up SBIRT and buprenorphine treatment in hospital emergency departments across Maryland 1億人スクリーニング：メリーランド州救急外来における SBIRT スケールとブプレノルフィン治療		
執筆者 Monico LB, Oros M, Smith S, Mitchell SG, Gryczynski J, Schwartz R.		
掲載誌 Am J Emerg Med. 2020 Jul;38(7):1466-1469. doi: 10.1016/j.ajem.2020.03.005.		
キーワード	PMID	
オピオイド ブプレノルフィン SBIRT 介入 治療	32171581	
要 旨 目的： オピオイドの使用が普及した昨今、アルコールおよび薬物乱用は臨床的な問題になっている。病院救急等の医療現場で、スクリーニング・早期介入・治療への紹介 Bringing Screening, Brief Intervention, and Referral to Treatment (SBIRT)を導入して速やかに治療介入を行うことを目的とした。 方法： 2014年7月～2018年11月まで、米国メリーランド州23病院の計100万人以上の受診に関する電子カルテ情報を分析した。救急外来患者にはアルコール使用障害識別テスト（AUDIT-C）と過去12か月以内の違法薬物および処方薬の使用についてのユニバーサルスクリーニングを行い、7点以上を陽性とした。臨床オピオイド離脱症状尺度（COWS）で7点以上ならブプレノルフィンかナロキソンを舌下投与した。7点未満の患者に対してはピアリカバリーコーチが地域医療への治療紹介状を作成した。 結果： 救急患者1,097,142人の内17.2%で過去1年間のアルコールもしくは何らかの薬物の問題使用が明らかになった。79,899症例に速やかに介入を行い、15,961症例の専門外来紹介を行い、内38.3%は治療に成功した。950人が離脱症状を示しており、70.1%の666人にはブプレノルフィンの使用を開始した。94.6%の630人は地域医療でのブプレノルフィンの使用管理治療への紹介を受け入れた。64.6%の430人は外来治療初診を受診した。救急外来を受診したオピオイド過剰摂取の疑い症例2,382人の内、53.8%が介入プログラムに紹介され、63.2%は救急外来での指導を受容した。 結論： 救急外来でのSBIRT活用術と米国全土での治療介入への履行モデルを示せた。		